

## 令和2年度 香川県ふるさと・水と土保全対策推進委員会 議事録

日 時 令和2年8月17日(月) 13時30分～15時00分

場 所 まんのう町川奥集会場

出席者 角道会長、香川副会長、猪熊委員、佃委員、野瀬委員、松田委員、松本委員、

議 事 議題1：令和元年度事業報告について  
議題2：令和2年度事業計画について  
議題3：ふるさと・水と土事業実施計画について  
議題4：その他(昨年度指摘事項について)

上記議題について全会一致で承認された。

### 【委員会での主な意見・指摘等】

#### ○ 中山間地域資源保全対策調査事業

- ▶ 庵治町には竜王山やサイクリングコース、日曜市など有用な地域資源があるので、それらを活用して今後の計画を進めると良い。
- ▶ 庵治町全体では規模が大きすぎるため、大字単位など小規模でコミュニティ形成をするべき。また、アンケート「庵治地区の将来を考える活動に参加したいか」という問いに対して、積極的に参加したいと回答した人を巻き込むべき。
- ▶ 地域活性化において外部からの刺激は非常に有効である。本調査事業において学生が積極的に関わっているのは非常によいが、かつての地区で学生の意見が取り入れられた事例はあるのか？  
⇒水主地区では、マスコットキャラクターやのぼりの作成、積ではコミュニティ形成等に学生の意見が取り入れられている。

#### ○ 農地維持管理省力化事業

- ▶ 島が峰地区を現地視察をして、改めて草刈りは重労働であることを再認識した。本事業における、予算とカバープランツの種類を教えてほしい。  
⇒予算は500万円である。また、カバープランツは多くがムカデ芝(センチピート)を施工している。  
なお、草刈りの維持管理を省力化するために、ラジコン草刈りの実演会などを企画中である。

#### ○ 写真コンテストについて

- ▶ 写真コンテストをPRするために、写真パネルを農業高校や香川大学農学部に貸し出したらよいのではないか。
- ▶ インバウンド対策のために、英語に対応した写真コンテストのチラシを作成したらよいのではないか。
- ▶ 学生賞を新設したが、学生の定義はあるのか？  
⇒学生とは小・中・高・大学生及び専門学校の生徒としている。

- ▶ 学校へのチラシ配布状況はどうか？  
⇒中・高・大学生及び専門学校には配布しているが、小学校には配布していない。
- ▶ 今までの学生の応募実績はあるのか？  
⇒令和元年度は県内高校に配布したこともあり、9名の応募があった。平成30年度より以前は10代の応募は1~2名程度であった。

#### ○ ふるさと探検隊について

- ▶ 探検隊において、昨年度宝山湖を外した理由はあるのか？  
⇒農業部局と連携して、昨年度新たに農業試験場をコースに取り入れたが、時間の都合上、アンケート結果を踏まえて宝山湖を外すこととした。
- ▶ アンケート結果如何によって、今後もルート変更はあり得るのか。  
⇒参加者の多様なニーズに応えるために、アンケート結果を参考としたい。

#### ○ 研修事業について

- ▶ 昨年度新規取組として、岡山県美作市上山集落に県外視察を行っているが、資料によると人口155人の中40人ほどが移住者とのことだが、上山集落がもつ魅力とは何が考えられるか？  
⇒原風景が魅力的なのはもちろんであるが、移住者に仕事を与え、生活が出来る体制を整備していることが、移住が多く定着している要因であると考えられる。

#### ○ 事業実施計画について

- ▶ 目標設定においては質的向上が図られる目標についても、考慮すべき。また、STEP1、STEP2と段階的に地域が活性化する施策も考えるべき。
- ▶ 棚田カードについて、5年間で倍増するとの計画であるが、現在2地区であることを鑑み、5年間の目標地区数はもっと増やすべき。  
⇒検討する。
- ▶ 香川県にどれだけの棚田があるのか？  
⇒有名な地区は中山千枚田と唐櫃棚田であるが、中山間地域等直接支払では約400の集落協定があるため、潜在的には多数あるものと考えられる。
- ▶ 写真コンテスト等を活用し、知られていない棚田をPRすることが重要である。
- ▶ 地域が研修を受け入れられる程の成長を目指すことも、一つの目標と考えられる。
- ▶ 事業が終わり補助金がなくなったとしても、持続的に地域が活性化するような体制整備が必要と考えられる。そのためには、地域の横展開やリーダーを育成する事業を考えるべき。